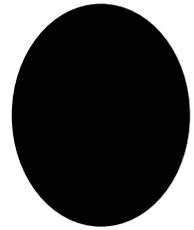


断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
事務局
呉市 押 込 5-12-25
渡部 憲方
郵便番号 737-0915
電 話 33-5571
発行人 渡部 憲
編集代表 井藤 宏道
印 刷 松広印刷(株)

データなし

(呉・美術館通り)



“初心”

常任相談役 田 中 正 直

私達の呉みどり断酒会は、去る二月に創立四十一周年の特別記念例会を迎えさせて頂く事が出来ました。これは断酒会発足以来長い歳月に亘り、私達に御指導と御支援を賜わった呉みどりヶ丘病院、院長、長尾澄雄先生の御蔭と心より御礼と感謝を申し上げます。

更に、全日本断酒連盟各地断酒会の諸先輩の皆様方の御蔭である事も決して忘れてはならない事と同様に、各関係諸行政の御理解と御支援にも感謝致して居ります。

振り返って想えば、私の場合、未成年の頃からの出鱈目^{デタラメ}の飲酒の連続によって、アルコール依存症になる迄の課程での培って来たと思える、その悪い癖、悪い習慣の殆どが自分の五体に染みつき、そうしたものの殆どが、自分の人間形成、人格化となつて来ていると思わざるを得ないのです。

現在でこそ、此うして酒こそは

断め続けて来て居りますが、過去の己の飲酒時代の諸々の悪行を振り返ってみるなら、悪徳非道、社会のダニ、妻子の心に大きな傷を植えつけて来た永い歳月の日々、人間の面の皮を被っていた人非人の諸行の数々は、只申し訳し無かった、相済まなかつた！の言葉では済まされない大きな罪の意識に怯えるのです。

更に、未だ日常生活に於いて、その悪癖、悪い習慣が治らず折り家庭生活で出るし、断酒会の例會に於いても、体験談と称して誇張した発言や、偽善^{ギョゼン}、欺瞞^{キマン}である自分に気付き、後になって苦悩する時が度々あるのです。

「初心不可忘」の教えの如く私にとつては、例会の場こそが、自分を確認出来る唯一の場として最も大切に必要なのです。一日一日の断酒の積み重ねと例会出席を仲間と共に精進して参りましょう。

創立41周年記念例会

体験発表

水本 恵美子

(家族)

呉みどり断酒会創立四十一周年記念例会おめでとーございます。この良き日に発表させて頂いた、私を感謝いたします。

私は、結婚して五十四年になりますが、酒にはずっと悩まされてきました。結婚当初から主人は、毎晩のように飲んで帰りが遅く私は不安の中で帰りを待っているというような毎日でした。

職場から近ければ帰る時間も早くなるかと思いい、引越しましたが毎晩遅い生活に変わりは、ありませんでした。今度は電車の時間を心配することもなく朝まで飲んで帰るという、状態が続きました。千鳥足の主人を抱えて布団に寝かせるのが私の仕事でした。

結婚当初、主人は『十年経ったら楽にしてやる』と言ってくれたので、苦しみながらも楽しみにしていたのですが、十年経ったとき、ぶつとりとその仕事をやめてしまいい情けなく思いました。

呉に帰ってからも、仕事は真面目にするのですが、やはり酒が入ると人が変わるといいますか、飲んで次の日、仕事を休み迷惑をかけました。幾ら待っても帰ってこない夜、警察に『倒れている人はいないか』と尋ねたこともありました。

酒さえ飲まなければ、気を使ってくれ、子どもにも優しい主人ですが、仕事に行かず酔って寝ている主人を見ると、憎らしく思いました。

その会社には、飲みながらもなんとか二十年勤め、その間に、子どもも大きくなり不安の中で辛さもあつたように思うのですが、会社が倒産して仕事が無くなって

からは、急な坂道を下るように、酒に溺れて行きました。

失業保険をもらいながら家に居て趣味もなく、昼間私が勤めている間に、飲んで酔い潰れては寝ていました。それでもアルコール依存症などは、つゆほどと思わず、結婚してから三年に一度は肝臓で入院を繰り返して、肝硬変にでもなつたらどうしようと思つていました。三ヶ月ぐらい経つて堪らず主人に、『失業保険はいらないから仕事をしてちょうだい』と言いました。

仕事につきましたが、どの仕事も飲んで体を壊し、続けられませんでした。

昼間から飲んでいる主人を見る生活、仕事場でも主人の事が一時も頭から離れられない生活には耐えられませんでした。相談相手のいない毎日に、私の精神状態もおかしくなりそうでした。

息子夫婦と同居し、孫に囲まれる生活が始まりましたが、主人の酒は止まらず、吐血して救急車で共済病院に運び込まれました。

主人は『これで最後かな』と一言、私は早く助けてもらいたい一心で救急車に乗っていました。でも吐血してあれほどの苦しみを味わったのに、三ヶ月程するとまた、飲み始めました。

その時初めて、呉みどりヶ丘病院を紹介していただき、主人が、依存症である事を知りました。断酒会とも繋がりを持たせていただきました。呉みどりヶ丘病院に入院させてもらえれば、断酒会で勉強すれば、断酒出来るだろうと思いい、すがるような気持でした。でも、断酒会の皆様と色々な

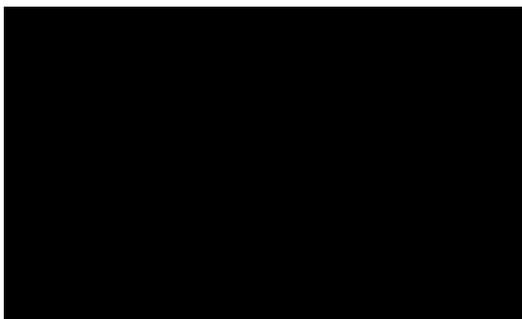
ところに行かせてもらいながら、
教えてもらいながらも、思うよう
に断酒は出来ませんでした。私も
主人が勉強すればいいのだと、自
分のこととして考えていなかった
ように思います。そのような気持
の甘さもあつたせいか、最初の入
院から一年のうち三回も入院を
繰り返しました。

主人は家族からいらぬものに
されたと反発する思いでいたよう
です。四度目のときは、説得で、
なんとか自分から車に乗ってくれ
ました。

退院してから、まずは一年断酒を
目標に頑張り、初めて一年が出来
たときの喜びは忘れられません。
私も一度は離れかけたこともあつ
た断酒会ですが、声をかけていた
だいて何とか繋がったおかげで、
断酒することが出来たのだと思ひ
ます。

その後、次は三年断酒を目標に
主人と共に頑張っていました。
後二ヶ月で三年がくる頃、ようやく
今度は出来そうだと指折り教え
ていましたのにまた失敗して入院
することになってしまったのです。

残念でなりませんでした。この人
は何をしても駄目だ、一生懸命家
族はしているのにこの人は何を考
えているのだろうか、人間の魂を
持つているのだろうか、情けなく
て、やりきれない気持を主人にぶ
つけたこともありました。



仲良く、例会出席

入院していたある日の夕方、病

院から『水本さんが外出されたま
ま帰られませんか』と、電話があり
ました。私は動揺していても立っ
てもいられなくなり、息子夫婦に
『広島へ行って探してきて』と頼
みました。主人が行くのは、たい

てい広島でした。そうは言つたも
の、どこをどう探せばいいのか、
見つかるだろうか心配でたまりま
せん。その反面、病院を抜け出し
たことに対する怒りも湧き上がつ
ていました。

『お父さん、見つかったよ』とい
う電話が掛かったとき、これで助
かった、良かったと思うと同時に
良くあの広い広島でみつかったな
と、何か不思議な気持でした。広
島駅へ探しに行つたとき、ちよう
ど駅のベンチに座っていたさうで
す。このことがあつてから、入院
している間も不安がぬぐえなくな
り、やはり断酒は無理なのかと精
神的に相当落ち込みました。そう
いった中、断酒会の皆様には、家
に足を運んで相談に乗ってくだ
さつたり、心配して電話を下さつ
たりと支えていただきました。本
当に有難く、感謝しております。

退院してからは断酒会には必ず
出席、断酒会の日には日常生活
の一部として支度して出てくれ
ています。こうして断酒に励み、今
では断酒七年を迎えることが出来
ました。これまで、幾度とない失

敗を繰り返してきたわけですから
これほどの喜びはありません。主
人への感謝の気持でいっぱい
です。本人も頑張りましたし、院長
先生をはじめ、断酒会の皆様には
本当に助けていただきました。

今では主人も退職し、家で二人静
かに生活を送っています。主人は
家でテレビを見たり、息子夫婦の
飼っている犬を可愛がったりして
普通の毎日を過ごしていますが、
私にとつてはとても幸せで、心は
平和でいられます。とにかく断酒
さえすれば、この静かな生活が続
いていきます。しかし、もし一杯
でも酒が入れば、この幸せは、砂
の城のように崩れてしまいます。
今では断酒も、もう七年が経ち
初めて入院したとき生まれた孫も
二十一歳と、大きくくなりました。
孫達にとつていいおじいちゃん
でいて欲しいと思います。今後も、
家族で協力しながら続けて断酒が
出来るよう努力していきたいと思
います。

院長先生をはじめ断酒会の皆様、
今後ともご指導のほど、よろしく
お願いいたします。

西村京子

(家族)

呉みどり断酒会創立四十一周年記念例会、お目出とうございます。今日体験発表を、させて頂き有難うございます。

主人との出会いは、白いコック姿と優しそうな顔立ちに、ひかれ付き合いをはじめました。私はあんまりお酒を飲む人が好きではないので、何日か経った頃に、『お酒はどれ位飲むの?』と聞いたところ『酒は見るのも嫌いだし、一滴も飲まんよ!』との返事に安心して心を許してしまいました。ある日夜遅くなつて、屋台で食事をする事になり、お店に入りカウンターに座ってから、主人は、すぐお酒を注文して一気に飲みました。ただただ驚きです。騙されたと思いましたが、当時はそんなに悪い酒ではなく、楽しい酒に見えたので、そのまま付き合いをして結婚をしました。

今、思えば結婚する前からアルコール依存だったと確信しています。

断酒会に入れて頂きましてから、本人の体験を聞く度にそう思えるようになりました。結婚当時は、私の父、母も健在で父とお酒を共に飲む姿を見ている時は、気が付きませんでした。父と母の前では、おとなしいのですが、どうも中通(繁華街)に飲みに行くと、呉署から、電話がかかり迎えに行き事がよくありましたが、お酒が入らない時は、何かと気が付く

優しい人でした。

その頃、私の知らないところで飲酒運転も日常茶飯事みたいで、ついに、飲酒運転で事故を起して、多くの人にご迷惑をかけて、両方の親にも心配をかけてしまいました。今は、主人の母だけが元気ですが、酒を止めた主人を見て喜んでるようです。話が戻ります。

その頃から何か様子が変で、まさか、本人が幻聴、幻覚が出ていたとはまったく気が付きませんでした。様子がおかしいので、主人のお母さんに連絡すると、主人の弟さんが、心配をして来てくれました。ところが、突然に大声をあげ暴れる主人を見て驚きと共に強い憎しみがこみあげて来ました。子供の入園式という前日に、アルコールの為に変わったものと、わからない私は、頭が狂つたと思いいんでいました。今、思えばあれは幻聴、幻覚であつたと理解できませんが、当時は本当に近所にも顔を合わせられないくらい、恥ずかしい思いをしました。

それから初めての呉みどりヶ丘病院との出会いです。何とか入院をさせる事が出来たのですが……。

私は一度として病院に様子を見に行く気にはなれませんでした。主人の事よりも、自分と子供が生活していく上で恥ずかしい思いをしたくありませんでした。今思えば何もかもが無知な私でした。

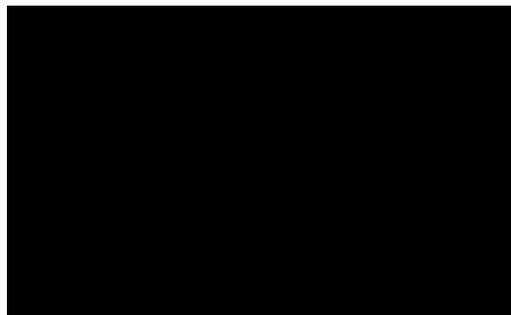
アパートの、近所の人達の好奇心に満ちた目がたまらなく嫌で引越をする形になりました。この時から、二人の仲に冷たい風が、吹き始めたと思います。なんとか退院となり、会社に復帰するのですが、会社で呉みどりヶ丘病院に入院した事が、噂になって本人が務まらないのかと不安で気にかけていました。いつの間にか又酒を飲み始めて、飲み始めると会社の人達の悪口がでます。それを止めようとする、必ず暴言、暴力が始まります。

それに祭りとか、正月は好きなように特に喜んでるようでした。或る年の瀬も押し迫った十二月三十一日、主人は朝から機嫌が

いいのか、ワンカップを飲みながら、車を掃除したり、犬を散歩させたり気ぜわしく動き回っているのを見ながら正月はお酒を控えてくれればと思ひながら、おせち料理を作っていました。一段落した時に『たまにはお前も飲んでみいや！』と無理じいをしてきますので、私も飲む口ももっていますが、そんな気分にはなりませんでした。

無事に正月を迎えたい私は、『酒！酒！しか頭の中にはないね！』つい、言つてしまいました。私も負ん気が強いのでつい言い過ぎます。

そんな酒を飲んだ主人の暴言、暴力は半端ではありませんでした。包丁を持ち出したり、私の髪をつかんで引きずり回したりそれは、すさまじいものでした。作った料理を投げつけたり、殴りかかってきたので、私も切れて大喧嘩になって大騒動になり、隣に住んでいる主人の母が駆けつけて止めてくれたのですが、酒は止めず、いやみを言いながら酔いつぶれるまで飲んで寝てしまいます。いつ



中国ブロック大会参加（倉敷にて）

のまにか、又何も食わずに連続飲酒になって、いつも正月明けは、お医者さんのお世話になっていました。

そして月日が過ぎて、五十歳前頃には、益々酒の量が半端ではなくなり、いつも身体が動かなくなるまで飲んで、最後に猫なで声で『助けてくれ！』と言ひ出します。信じられませんが、こんな主人が嫌で、嫌で、死んでくれたらと思ひ酒を飲ませ続けておりました。

近所の病院も断られるようになり連続飲酒で仕事に差し支えるよ

うになつていて仕事を休んで飲んでいた時に、子供が独立したのを機に、昔お世話になつた、呉みどりヶ丘病院に本人に黙つて電話して看護師の方に来て頂いて入院させました。

“ほつと”する間もなく主人から毎日電話がかかり『みどりに入院させてわしの人生メチャメチャにするんか！』とか『脱院して家ぶつ壊すぞ！』それから入院退院の繰り返しで、入院させた事の逆恨みで益々暴言、暴力に拍車がかかり、退院すると又酒を飲み、この人は一生酒を止めない人、人間の心も無くなつてしまつた人と思ひました。入院の繰り返しは仕方ない事ですが、私の精神状態は『ギリギリ』のところまできていました。

院長先生の所に相談しに行つた時、初めて断酒会を勧められました。私としては、主人は酒を止めることは絶対出来ないと思つていましたし、私が断酒会に入会してどうなるのかと反発心を持ちましたが、とにかく一年間だけ出席し

てみようと思ひ直しました。

これが最後の賭けです。断酒会に一回一回出席する度に、自分の気持ちだが、やわらいでいくのがわかりました。又主人に対して、心の底から酒を止めてほしいと思う気持ち芽生えて来ました。その間には主人は入院退院を繰り返して断酒会の事など頭にはなかつたようです。五回目の退院の時、やつと断酒会につながつてから酒が止まつています。

本当に不思議です。断酒会の力は……。

主人も色々と考ええる事があるようですが、断酒する為に自分なりに頑張つてくれていきます。有難いことだと思ひます。自分を守る事に一生懸命になり、主人に対して思いやりを持つこともなく生活してきたのが恥ずかしく思う様になつたのも断酒会の中で皆様の話を聞かせて貰つて気が付くことが出来ました。

本当に一人だけの力や考えでは世間に通用しないと思ひます。本日はありがとうございました。

大段節子
(家族)

皆さん、こんばんは、大段一弘の妻、節子です。

呉みどり断酒会創立四十一周年お目出度うございます。この佳き日に私に体験発表の場をあたえて下さり、心より感謝申し上げます。

私達は、見合い結婚で今年で、四十九年になります。今迄、よく一緒におられたものと、色々と思ひ出されます。

家は自営業で釘を作り、朝五時頃から始まり機械の大きな音の中で毎日忙しく、景気は良く一生懸命に働きました。主人も当時は若く食事の後は近所の飲屋で楽しく飲んで、だんだん帰りが遅くなりましたが、それでも仕事はしています。二年目に長男が生れ、私も忙しい毎日です。でも主人の飲みに出るのは変らず両親も「子供が生まれたのに少しは考えりやええのにと、言っていました。が食事もそこそこに出かけ、帰りは遅く

なるばかりです。朝食時には一言二言、小言が出て暗い日々が続くようになり、私も、どうしてよいかわからず淋しい毎日でした。でも、次々と子供が生まれ三人の子供に恵まれ、それを心の支えに頑張ることができました。

義父は、まがった事は許さず、主人は自分の思いが通らない時は出かけて、初めて、飲んでバイク事故を起し近くの病院に連れて行かれ、「顔中血だらけ」でも、キズは浅く家に帰る事が出来ました。恐くて少しはおとなしくしているかと思いましたが、大きな間違いで、皆の手前バツが悪く、出かけては飲んでいました。

家族とのいさかきも激しく、今思えば飲む主人を責めるばかりでした。そんな時の言葉は「エー、仕事なんか出来るか!」と……：だんだんと、深酒になり食事も、ノドを通らず上げたり下げたり、トイレも間にあわず自分も苦しく我慢していた朝、ガタンと大きな音がして硬直状態で倒れており近所の先生に診てもらおうと「このままじゃ死ぬぞ!一度検査しても

らいなさい」と病院を紹介され、待つている間に又倒れ、そのまま入院し、検査も済まない次の朝、「すぐ来て下さい」と病院から、電話がありました。パジャマ姿のまま外にとび出て、わけのわからない言葉を言つて、同室の人がヤクザで自分がやられると近くの家に入り込み、警察に保護されています。家に連れて帰るように言われて、とうとう酒で頭が狂つてしまったと思ひ、親類や兄弟にも迷惑が掛かるので少しでも遠くの精神病院へ、初めて入院させました。

元氣になり三ヶ月位で退院しておとなしく仕事も頑張つていますが、又少しづつ飲みだし注意すれば大声で「自分が働いた金で飲み、人に迷惑をかけるんじゃない酒で死んだら本望よ」と、怒鳴りちらし「氣に入らんにや実家に帰れや」と……一言一言の暴言が胸につきささり苦しい毎日どうにもならず、父母、子供達にも話す事なく、いざこぎの続く狂つた毎日でした。どうにもならず保健所に行き、呉みどりヶ丘病院を教えて頂き、ワラをもつかむ思いで、昭

和五十二年、四十才で院長先生との出逢いで入院する事が出来ました。そして、先生から「どうして酒を止めなければいけないか、奥さんも例会に出て勉強しなさい」と言われ、家族に話すと「飲まん者が勉強せんでも飲む本人が、勉強すりやええが」と……。

でも仕事の後、三人の子供を両親にたのみ例会出席すると、顔見知りの人が声を掛けて下さり励まして下さり、同じ酒で苦しんでこられた事を聞き、例会出席が始まりました。でも、この二時間の例会の中、何時もお酒で困り苦しんで来た同じ話しばかりで、お酒が止められるのかしらと、不安も有り

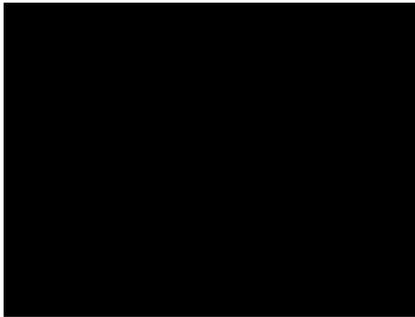
ました。

主人も退院し先輩に助けて頂き例会に出ましたが、素直ではなく「暑いじゃ寒いじゃ」とあの坂を反発ばかり言いながら登るのですが、帰りは少し気持も変り「出席して良かった」と思いました。でも止める気のない主人は一ヶ月位はどうにか我慢していましたが、その後、飲み出しそのまま「ものもくあみ」そして、何度も入退院を繰り返して、心配ばかり掛けていた時、義父が亡くなり、今度こそは自分が責任を持つて頑張ってくれろと思いました。しかし恐い者がいなくなり酒も止めず、断酒会からも離れて行きませんでした。その間も、会の方達が声をかけて下さいましたが、聞く耳を持たず反発ばかりしていました。平成五年、どうにもならず「もう一度、先生にたのんで助けてくれ」と先生に入院をお願いし、両脇を支えられて行く姿を見て「これが最後の入院にしたい」と思いました。

退院の時、「今度飲むと死んでしまうぞ、焦らず例会に出て頑張

れよ」と、先生に励ましていただきました。酒害の病識も知らず、唯々、もがき苦しんだ二十数年間、主人は「**今度は止めるぞ**」と、一言、でも私の胸の内は不安で、いつばいでした。

それから二人して例会出席が始まりました。その間、田中相談役さんには例会后、送って下さり色々話を聞いて相談して、心の支えになり例会出席を続ける事が出来て、心から感謝しております。又家族のみなさんに暖かく迎えられる、例会出席していれば少しずつ良い方向に向います。くじけず頑張りましょうね」と声を掛けて下さり胸がいつばいでした。



お父さん、断酒15年おめでと

どうしても止められなかった酒が、断酒一年を迎えた時の嬉しかった気持は忘れる事ができません。又、息子の結婚も無事済ませ、少し落ちついた毎日でしたが、断酒三年を迎え喜んだ矢先、いつも胃薬を飲んでいる事を院長先生に話すと、一度検査をするように言われました。一週間後「どうしても悪い物があるらしい」と言われ、国立病院を紹介して頂きました。主治医に「私はアル中で、今酒を三年止めているのですが手術は大丈夫ですか？」と尋ねると、「心配しないで、大丈夫よ」と、言っ下さったのですが、部屋が空くまで検査続きで何も手につかず、主人がヤケを起して飲まなければいいかと、夜も寝れない毎日、この間も、会の皆さんが声を掛けて下さり本当に心の支えとなりました。手術は、**胃を $\frac{1}{2}$ 取り、ガンを取り除き**、無事済んで日増しに元気になりました。会の皆さんがお見舞いに来て下さり、嬉しい悲鳴をあげていました。無事、退院する事が出来、皆さんには、心から感謝しております。

今は、義務例会だけは休まず頑張っています。時々先輩が言われます。「酒を止めているだけじゃ駄目で！世間や周りの人、今迄迷惑かけた人達との係わり付き合いませんにや」と……。少しずつですが話し合える輪ができ「あれほど飲みよっちゃったのに頑張りよるんじゃね」と、声を掛けて下さいます。少し前に、主人が断酒した頃から**駅の掃除しているのを地区の方が知り、表彰して下さり**思わぬ喜びでした。少しずつ周りの人と話す「輪」が広がりに落ちついた生活が出来るのも、会長さん、先輩の皆さん、家族の皆さんに助けて頂き、主人の断酒に手助けを頂き心から感謝申し上げます。又、呉みどりヶ丘病院院長、長尾澄雄先生には、あきもせず何度も命をすくって頂き心から感謝申し上げます。

これからは色々な事が有ると思いますが「初心」を忘れず断酒会を大事に会の「輪」の中で、二人で例会出席で頑張つて参ります。これからも、よろしくお願い致します。ありがとうございます。

